

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名： 木村 昌司

事業名	一般国道153号 <small>いなん</small> 伊南バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局	
起終点	自：長野県上伊那郡飯島町本郷 至：長野県駒ヶ根市赤穂				延長	9.2km	
事業概要	伊南バイパスは、上伊那郡飯島町本郷から駒ヶ根市赤穂に至る延長9.2kmの一般国道153号のバイパスである。						
H9年度事業化	H9年度都市計画決定		H10年度用地着手		H13年度工事着手		
全体事業費	約410億円		事業進捗率	27%	供用済延長	2.9km	
計画交通量	24,800台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	3.0	総費用 (残事業)/ (事業全体)	225/339億円		総便益 (残事業)/ (事業全体)	504/1,018億円
	(残事業)	2.2	事業費	194/307億円		走行時間短縮便益	453/940億円
			維持管理費	32/32億円		走行費用減少便益	43/68億円
						交通事故減少便益	8/10億円
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（長野県平均の1.5倍を示す当該区間の渋滞損失時間の低減が見込まれる） 他5項目に該当 						
関係する地方公共団体等の意見	<p>一般国道153号伊南バイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和に重要な役割を果たすことが期待されており、関係する駒ヶ根市および飯島町の首長、議員で構成される国道153号伊南バイパス建設促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。</p>						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> 並行する一般国道153号の当該区間1kmあたりの渋滞損失時間は、長野県平均の1.5倍と高い状況にある。 伊南バイパス（駒ヶ根工区）の一部区間および伊那地域と木曾地域を結ぶ一般国道361号権兵衛峠道路の開通により通勤・観光など地域間の交流が活発化し交通量が増加傾向にある。 						
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>用地買収率64%、現在までに北の原交差点～中通線交差点間の2.9kmを暫定2車線にて部分供用している。</p>						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> 駒ヶ根工区4.2kmのうち、1.3kmについては、平成19年度に暫定2車線で供用予定である。飯島工区5.0kmについては概ね10年での供用をめざす。 						
施設の構造や工法の変更等	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁構造に少数主桁を採用するなど新技術の適用などによりコスト削減を図っている。 						
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考える。						
事業概要図							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。